

1. 東京大学大学院 人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

2. 派遣生の基本情報

氏名 原田静香

所属研究室 韓国朝鮮文化研究室

学年 修士1年

派遣形態 推奨プログラム

3. 派遣先の研修プログラムの名称

ソウル大学校国際夏期講座

4. 様式1 (研修の概要)

(1) 派遣先の研修プログラムの基本情報

国名 大韓民国

都市名 ソウル

研究教育機関名 ソウル大学校

プログラム名 서울대학교 국제하반기강좌 (ソウル大学校国際夏期講座)

(2) 派遣期間

出発日 6月26日

帰国日 7月31日

総日数 36日

(3) 研修スケジュール

6月26日 入国・入寮

6月27日 オリエンテーション

**6月28日 授業開始1(Art and Popular Culture in Contemporar
Korea: 現代韓国の芸術と民衆文化)**

6月29日 授業開始2(Korean Language: 韓国語)

7月3日 フィールドトリップ1(景福宮、仁寺洞)

7月17~18日 フィールドトリップ2(全州)

7月29日 授業終了

7月30日 修了式

7月31日 出寮・帰国

様式 2-1 (自己評価日本語版)

(1) 当初の計画の概要

選択した授業：「現代韓国の芸術と民衆文化/Art and Popular Culture in Contemporary Korea(No.10)」、「韓国語/Korean Language」

韓国文化の中でもポピュラー・カルチャーは自分の関心の大きい分野であり、研究対象である「青年層/若者の文化」とも関連する部分が多い。よって、本夏季講座で韓国のポピュラー・カルチャーを専門とする教授の下で学び、韓国の民衆文化に関しての理解を目指した。また、シラバスでは韓国のポピュラー・カルチャーとマスメディアの関係についても触れることが述べられており、韓国の青年層のパフォーマンスにおけるマスメディアとの関連/それから受ける影響に結び付けて理解を得ることができると考えた。また、語学の授業では、研究活動に不可欠な韓国語能力の一層の上達を目指した。

(2) 実際に達成された成果

当初の目標は、韓国の Popular Culture への理解、韓国語能力の上昇であった。Popular Culture について、実際の授業で取り扱われた素材は食・映画・宗教・コマーシャルであった。自分の研究対象である若者文化とは少々距離があるものもあったが、それらの読み解き方が韓国についての豊富な知見と共に解説されたため、広い知識を得ることが出来た。直接的に研究に繋げて・・・と言うより、これを土台として自分の研究に大いに生かすことが出来ると考えている。また、プレゼンテーションや個人的に教授に指導を受ける場面で自分の関心についてのアドバイスを受れたり、教授の知人の教授を紹介して頂くなど、授業外での成果も得ることが出来た。韓国語は、全体のクラス分けが3つしか無かったこともあり所属した上級クラスでもレベルに開きがあった。そのため、先生に文章要約を提出し採点をお願いするなどして、より自然な文章の書き方を学ぶことが出来た。

(3) 感想

今回、ソウル大学校国際夏季講座にはアメリカ・シンガポール・イギリスを始めとして、多くの国から学生が集まっていました。日本からの参加者は、東大からの3名だったように思います。通常、韓国での留学と言うと韓国人と机を並べることを想像しますが、ほとんどが英語圏出身の学生で、その中に何割か韓国語を母語とする学生(アメリカなどに留学している韓国人学生を含む)がいるといった感覚でした。授業や参加者との会話はもちろん英語、しかし教室の外に出ると韓国語を使わなければならない生活は、新鮮で緊張感がありました。学生は、高校を卒業したばかりの人から修士課程で学んでいる人までバラエティに富み、それぞれのバックグラウンドも異なるため、どうしてこのプログラムに参加したのか・韓国とはどういう繋がりがあるのか、お互いに話すことはそれ自体とても興味深く楽しいものでした。中でも、参加学生の中で、自分と同様に韓国について研究をしている・したいと思っている友人を得られたことは、とても価値ある出来事でした。それぞれ

が韓国についてどのような関心を持っているか、特定の事象についてどのような考えを持っているのか……そういった話を共有することができたのは、このプログラムならではのことであったと感じます。プログラムを通じて知り合った各国の友人とは、帰国後もメールやSNSを通じてよくやり取りをしています。参加学生以外にも、担当教授のご紹介を頂き、ソウル大学の教授や学生とお会いすることが出来たことも大きな収穫でした。資料室に案内していただき、ソウル大学の学生が書いた修士論文を見せていただく機会にも恵まれました。資料収集としては、ソウル大学の図書館の中や国立図書館に赴き、自分の研究に有用な論文や諸資料を集めて日本に持って帰ることもできました。

この夏、ソウルで過ごした期間は5週間と決して長いものではありませんでしたが、非常に中身の濃い、充実した時間をソウル大学という場所で過ごすことができました。私はこのプログラムを通じて、修士論文について多くの助言・アイデアを得ることができ、これから学生生活について良い展望を開くことができました。私達派遣生がこのプログラムに無事参加し、沢山のものを得て帰って来るまでにご尽力いただいた先生方、次世代人文プログラム担当者の方々に心から感謝の意を述べると共に、これからの自分の勉学に一生懸命励みたいと考えます。本当にありがとうございました。